



INDEX

■ JAトピックス	2
■ 地域の出来事	7
■ 営農ホットライン	8
■ JAグループ通信	9
■ みんなの広場・編集後記	10
■ JAインフォメーション	12

● 表紙

北海道知事より認定を受け、北海道農業士の一人となった佐々木 操氏



釧路太田農業協同組合



←JA釧路太田オフィシャルウェブサイト
www.ja-kushirooota.or.jp/

ja 釧路太田





農業士への仲間入り!

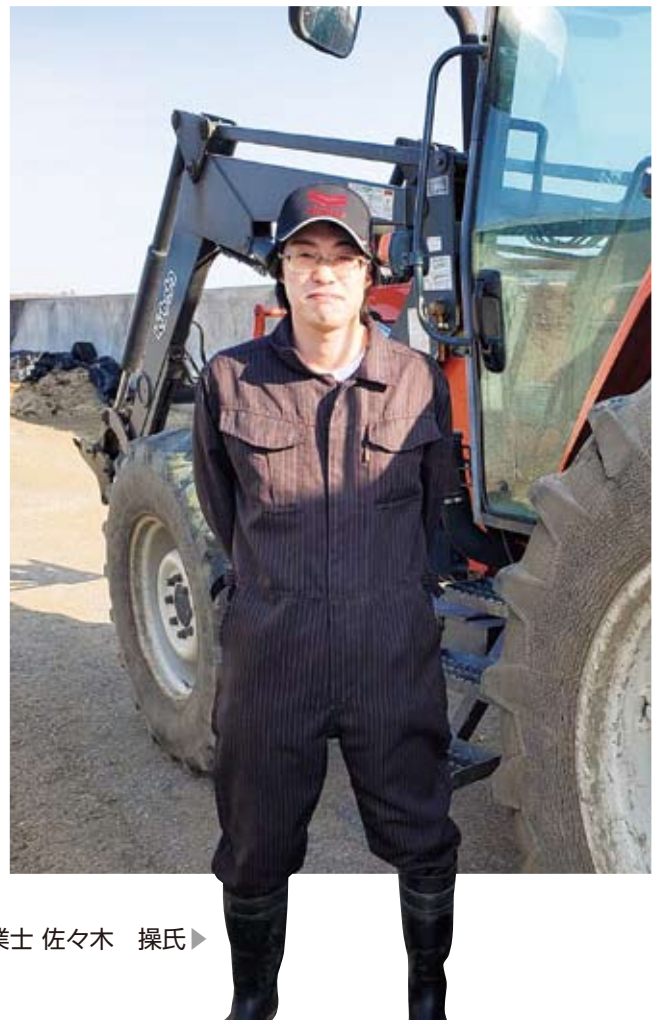
厚岸町には指導農業士が7名（うち3名は特別会員）、農業士は佐々木氏を含めると5名となり、農業担い手の育成指導や地域農業振興に活動する者が、また1人仲間入りしましたので紹介します。

令和元年11月より、普及センターを通じて厚岸町に農業士候補者として推薦してありました【佐々木 操】氏ですが、令和2年1月に北海道知事より認定を受け、北海道農業士の一員となりました。

佐々木氏は厚岸町片無去に在住で、父親である薫さんの酪農経営の後継者として、平成15年より本格的に酪農に従事されております。

平成29年には、ご両親より経営移譲され、経営者として奥様と3人の子供たちと一緒に、堅実かつ積極的に酪農経営に取り組んでおります。

現在は、FS牛舎で130頭の乳牛を飼養され、アプレストパーラーで搾乳作業を行ない、年間1340tの生乳を出荷されている、地域でも有数の大規模な酪農経営を行なっております。



北海道農業士 佐々木 操氏▶



地域の農業士みなさま
これからもよろしくお願いします。

北海道農業士の要件とは？

農業に5年以上従事している30歳以上の者で、地域リーダーを目指し資質向上への意欲が高く、経営改善に積極的に取り組むとともに、青少年活動や地域活動に率先して参加活動している農業者である。

また、実践的な研修を通じて、農業経営や農村生活についての知識や技術を習得させ、次代の農業の担い手になろうとする者へ助言などをする役割も担っている。

経営改善に向け積極的に取り組み、青年部長などを務めたリーダーシップを発揮し、これから農業士として地域酪農の発展と担い手や就農者のよきアドバイザーとして更に活躍してくれることを期待しているところであります。

現在、経営における課題を解決するため、飼料用とうもろこし栽培面積も年々増やしていくことにより、不足する粗飼料確保に向け努力されております。

更なる規模拡大と省力化を目標としており、クラスト事業などの活用により搾乳ロボットの導入も視野に入れ、日々酪農経営に奮闘されております。



◀贈呈を受ける
佐々木 操氏



酪農体験

Farm stay

当JAにおいて、京都府から大学1年生の男性1名（小早川仁志さん）、2月17日から2月21日まで5日間の日程で荒岡宏文牧場にて酪農体験（ファームステイ）の受入れをして頂きました。



当JAの酪農体験については、「酪農に関心を持つ人材との交流による長期的な人材獲得への取組み」として、交通費の全額相当支援など体制整備を行いながら、農業人フェア等の就農イベントにてPRをしておりました。

酪農という生産者の現場の基となる牧場に関心を持ち、学校の春休みを利用しての酪農体験となりました。釧路空港到着日は悪天候となり飛行機の到着が危ぶまれましたが、遅れながらも無事到着し小早川さんにお会いできたときは「着陸できてよかったね」と安どの空気が流れました。

期間中は、牧場見学、極みるく工房見学、町内観光など有意義な時間となり、酪農をはじめ、あつけし極みるくや海の幸など地域の魅力について十分なPRとなりました。

雪も解けて少しずつ春が近づいていたところでしたが、到着日の雪で一面が銀世界となり「北海道の美しい風景」や都会では味わえない

この時期特有の寒さなど、私たちににとっては当たり前の事ですが小早川さんにとってはとても新鮮だったそうです。また、お酒も大変おいしかったようで荒岡さん家族と晩御飯での語らいが楽しみの一つだったそうです。最終日には分曉に立ち会う事も出来て充実した時間を過ごして頂きました。

将来の夢を聞くと、学校では法学部を専攻し政治や政策に関心があり勉強中との事です。最後には「また厚岸町に來たい」「日頃から様々な食材に触れているが、その先に生産者がいることを実感できた」「またカツミートが食べたい」といった嬉しい声を聞くことができ、担当としては厚岸の酪農に関与できる道に進んで頂きたいと期待したところであります。

今回、受入れを頂いた荒岡牧場の皆様には、牧場作業や食事をはじめとする生活面まで快く受け入れにご協力を頂きありがとうございました。

酪農体験を終えて

小早川 仁 志

この度の酪農体験では大変お世話になりました。
がとうございました。

2020年2月17日～2月21日の、厚岸町での酪農体験は、自分にとっても豊かで充実した5日間でした。今回、自分がこの酪農体験に応募したきっかけ、酪農体験中印象に残った出来事、酪農体験を終えてみての感想を書かせていただきたいと思います。

まず、酪農体験に応募したきっかけとしては、一番は酪農を体験してみたいと思ったことが大きいです。自分は大学では法学部に所属しており、酪農とは全く関わりのない場所にいます。

しかし、父が農業関係の仕事に就いていたこともあり、農業・酪農に興味があり、「酪農」という農業の大きな一端を担う産業の、一番初めの部分（第一次の部分）を実際に農家さんのところで経験したいと思っていました。また、高校時代に、北海道の酪農高校生活を題材とした漫画『銀の匙』を読み、北海道の雄大さにあがれて大学生活中にできるなら体験してみたいと思っていたことも、酪農体験を志望した大きな理由です。

次に、実際の酪農体験についてです。親子で牧場を経営している荒岡牧場さんのところで、お父さんの家に住まわせてもらいながら酪農やそのほか色々な経験をさせていただきました。

お世話になったご家族は本当に穏やかで親切で、本当に楽しく、気兼ねない生活を送ることができました。毎日の食事やお酒も頂き、お父さんと一緒にちよっとした宴会を開きました。朝食時には、その日の朝の搾りたての牛乳を沸かして頂いたのですが、本当においしかったです。

酪農体験では、様々な部分が記憶に残りました。一番苦労したのは、搾乳の作業です。荒岡牧場では、搾乳はポンプのような機械で行うのですが、まずそれをする前に、牛の乳の出をよくするために手で牛の乳を搾る行程があります。その作業がとても難しい。自分は最初のほう、かなり手こずりました。搾っていると思ってても牛から全く乳が出ず、もつと強く引っ張るようになってみて、と荒岡さんや従業員の方からアドバイスをいただいたのですが、なかなかコツがつかめずにいました。3日目くらいでようやく、コツがつかめ、短い時間で牛の乳を出させることが少しできるようになりました。嬉しかった反面、難しいなあと思う気持ちもありました。

牛の乳房は繊細で、ちよっとしたことでもばい菌が入って病気になり、搾れなくなった牛の乳房もある、ということも学びました。生きている動物を相手にしているのですべて合理的というわけにはいかず、不合理な部分やうまくいかないときがある、それを実感できた時でもありました。

僕の酪農体験最終日の朝に、子牛の分娩の様子を生で見ることができました。子牛が生まれてくる様子や、母牛が生まれた子牛をなめるのを見た時にも感動を受けました。生まれた子牛（この子牛は最終日以前に生まれていた）が次の日にはもう自力で元気に立っているのを見た時には、同じ哺乳類でも人間の赤ちゃんとの違いを感じさせられました。

酪農体験以外では、厚岸町内を車で見て回らせていただいたのですが、展望台から見える町、海、島々の雪景色がとてもきれいだっということが印象に残っています。

酪農体験を終えてみて、まず、JA釧路太田さん、お世話になった酪農家の荒岡さん家族をはじめ、多くの方々に多大なご支援とご協力をいただき、今回の酪農体験をさせていただく機会をもらったことに、感謝申し上げます。自分が住む京都ではなかなかできない貴重な体験をさせていただきました。酪農体験ももちろんのことですが、滞在中には厚岸名産の力キや海鮮料理など美味しい料理もいただき、本当に楽しい5日間でした。JA釧路太田さんからの交通費の支給やそのほか諸々の支援も、とても助かりました。

また、今回の酪農体験を通じて、お世話になった厚岸の方々の度量の広さや、牛という生き物と仕事をすることの難しさ／楽しさをじかに感じることもできました。自分の将来の進路を考えるうえでも、この5日間がとても良い経験となりました。今回の泥臭くも鮮やかな体験を、これから大学生活を送り社会人になっていくうえで自分の糧にしてゆきたいと思っています。

最後になりますが、この度は厚岸町での酪農体験への多大なるご支援と貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。





根釧酪農ビジョン学校訪問 及び就農相談会

令和2年1月24日(金)根室、釧路地域の市町村長並びにJA組合長で構成し地域酪農の振興を図るための組織となる根釧酪農ビジョン推進会議が主催する学校訪問及び就農相談会が開催され、翌日1月25日(土)は新農業人フェア(東京会場)が開催され、厚岸町農業委員会、当JA、酪農実習生受入協議会副会長の宮本氏が参加を致しました。

学校訪問として中央動物専門学校(東京都)を訪ねし生徒の進路状況等について進路指導の先生と意見交換をし、酪農を志望する生徒は少ないとの事でしたが、今後、酪農分野について生徒への後押しをお願い致しました。

また、同日、ふるさと回帰センター(有楽町)にて開催された就農相談会では年齢20〜40歳の男女4組の来場者と面談し、北海道への移住を希望する方や酪農体験に関心がある方とお話し地元厚岸町についてPRを致しました。

翌日は当JAが定期的に参加している「新農業人フェア東京会場(池袋)」が開催され、全国から264先がブース出展し、面談するための来場者への声掛けも毎回苦戦するところではありますが、厚岸町ブースへは男性5名・女性6名の計11名の方と面談することが出来ました。

30歳代の独身男性で酪農未経験者ではありますが酪農経営へ大変意欲的な方や、酪農体験、ヘルパー、実習生に関心がある方など来場した動機は様々でしたがしっかりと厚岸町をPRし充実した時間となりました。

このようなイベントは就農希望者との唯一の接点であり、貴重なコミュニケーションの機会でもありますので、今後も粘り強く、イベントへの参加を継続的に行ない、他地区との差別化を図りながら、新規就農者やヘルパー希望者や実習体験希望者などの人材確保に取り組んで行きたいと思っています。

新農業人フェア(東京会場)参加





茨城県で 学校訪問 しました

令和2年1月23日(木)、当JAの担い手確保に向けた取組として茨城県立農業高等学校、茨城県立鉦田農業高校、鯉淵学園農業栄養専門学校へ訪問を実施しました。

他のJAでは、学校との繋がりにから生徒の酪農体験等を通じて担い手確保に向けた交流がされておき、学校側として生徒を送り出すための現状や課題について把握するとともに、学校との関係づくりへの足掛かりとして、進路指導や農業学科を担当する先生と面談を致しました。進路状況や生徒の酪農への関心について聞き取りながら、教育現場として北海道酪農への生徒の送り込みについてお願いしたところ、授業として牧場実習がある学校については酪農体験について関心があり、中でも鯉淵学園の3月の牧場実習として4名の生徒の送出しをお約束頂きました。

酪農体験の受入先となる当地区の牧場にもご協力を頂きながら取り進めておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響があり、残念ながら酪農体験は中止となりました。学校や生徒の方にはご迷惑をお掛けしましたが、担当先生からも当JAとの関係について今後も維持して頂けるとの事でしたので、別の機会にまた酪農体験への送出しについてお願いを致しました。

他の2校についても酪農に関心がある生徒への後押しをお願いしておりますので、今後も定期的に学校と連携を取りながら、生徒さんがやがて北海道酪農へ関心を持ち、新規就農者やヘルパー希望者や実習体験希望者など当地区の未来へと続くよう担い手の確保に向けて粘り強く取組んで行きたいと思っております。牧場の皆様も、機会がございましたら酪農体験の受入れにご協力をお願い致します。

厚岸町農技連主催

酪農懇談会の開催

クローズアップ
地域の出来事



令和2年2月14日(金)に地域活性化施設「らくとぴあ」において、厚岸町の農業関係機関で構成される組織【厚岸町農業技術者連絡協議会(会長:金澤勝)】が主催する「平成30年度酪農懇談会」が開催されました。

金澤会長より開会のごあいさつをいただき、本年度は、ホクレン釧路支所酪農課長の後藤氏より「国内外の酪農情勢と今後の生乳流通について」ご講演をいただきました。

参加者は、組合員をはじめ関係者も含め21名の方々が参加され、海外の酪農情勢、国内においては指定団体制度について広域的な需給調整機能や生乳取引交渉力の強化等の様々な機能があること、酪農を支える様々な制度により生乳流通の安定化が図ら

れていることなど丁寧に説明を頂きました。また、海外の飼養形態として水上に設置された牛舎や搾乳施設など珍しいお話を頂き、参加者の皆さんは興味津々で耳を傾けていました。

酪農家のみなさん、苦労の結晶となる生乳の安定的な出荷さらには生産拡大に努められ、厚岸町酪農の発展のために頑張ってください。



今年の冬の傾向と 今後の草地管理

(1) 今年の冬の傾向

3月15日時点の降雪量は、太田アメダスで前年比71%となっています(図1)。雪は少ないものの、気温が1月を中心に平年より暖かく推移したため、土壌凍結は平年並みとなっています。

これらの状況から、土壌の融解が平年より遅くなる可能性は小さいです。

(2) 施肥の準備を進めましょう。

牧草は、気温が5℃以上になると生育を再開します。肥料は生育再開後早い時期に施用するほど、収量が確保できる傾向にあります(図3)。

☆☆平均気温が5℃以上になる日(平年値)☆☆

●太田アメダス 4月26日 です。

これを目安に、ほ場に入れるようになりましたら、肥料をまきましよう。

(3) 新播草地の冬枯れについて

この冬は5年ぶりに11月の降雪が0cmでした。夏播種の牧草は例年より長い時間寒風にさらされたことになります。

冬枯れは牧草が萌芽する4月中～下旬に確認し、牧草の枯死有無とその程度を確認し、必要に応じて対策を取りましよう。

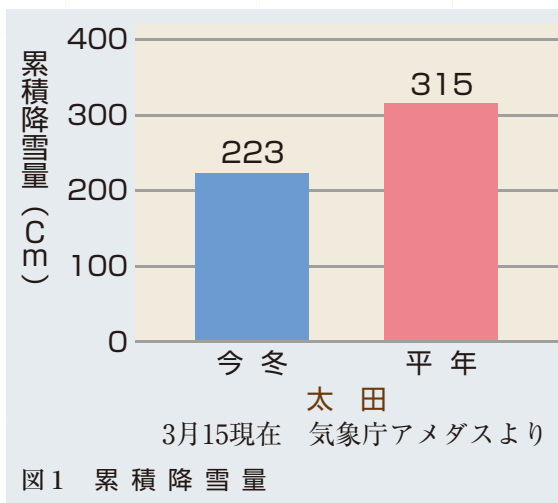


図1 累積降雪量

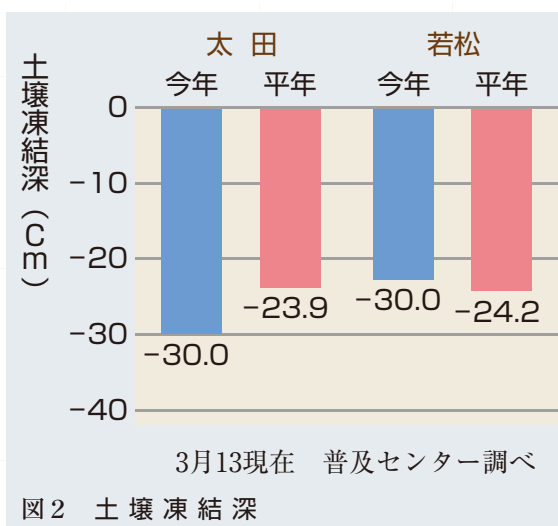


図2 土壌凍結深



図4 あっけし酪農通信 第7号

詳しくは、3月下旬に配布されました“あっけし酪農通信”第7号「新播草地の冬枯れ&裸地対策」をご覧ください(図4)

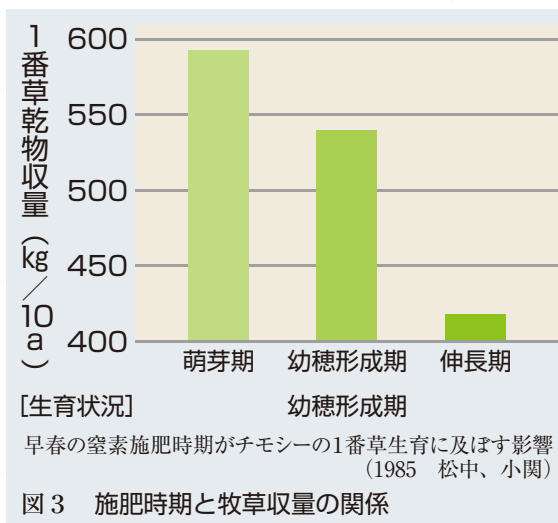


図3 施肥時期と牧草収量の関係

運転初心者が増えてきます。思いやり運転を

■お問い合わせ先／普及センター東部支所 TEL.0153-65-2021



JA北海道中央会



J A北海道中央会、ホクレンは「新型コロナウイルス対策に関する農林水産省北海道現地対策本部（対策本部長：伊東農林水産副大臣）」と3月9日に新型コロナウイルスに関する対応策について意見交換を実施いたしました。

意見交換会ではJ A北海道中央会の飛田会長より、生産者に感染者が出た際の農作業への影響や学校給食の休止に伴う生乳の需給問題、外国人技能実習生の入国遅延などの課題解決に向けた対応を国に求めました。

伊東副大臣からは、農業者など1次産業の従事者が感染した際の対応策を示す重要性に触れ、「生産現場向けガイドラインを示し、感染防止、風評被害の払拭に努めたい」との発言がありました。

J Aグループ北海道としても引き続き、組合員の営農及び生活を守るため、組合員に感染者が生じた際の対応や北海道産農畜産物の消費拡大に向け、各作目別対策本部及び北海道農政事務所等と連携して参ります。



JA北海道信連



北海道日本ハムファイターズでは、ウィンタースポーツを楽しむ子どもたちが増え、北海道の活性化に貢献することを目的に、ウィンタースポーツの競技・活動団体に対する助成事業「ゆきのね奨励金」を実施しています。J Aバンク北海道もこの考え方に賛同し、令和元年度より当事業に協賛をしています。当年度は道内9地域・7競技の11事業に対して支援を行いました。



JA共済連北海道



J A共済連北海道では、令和元年度の交通安全活動への積極的な取り組みが評価され、北海道警察より感謝状が授与されました。今年度は「自動車交通安全教室（スケアード・ストレイト）」、「全道小・中学生交通安全ポスターコンクール」をはじめとして全13の活動を実施しております。くるまの保障を取り扱うJ A共済では、交通事故を一件でも減らすために、これからも交通安全活動によって地域住民の交通安全意識の高揚を図り、交通事故のない社会づくりへ貢献していきます。



ホクレン



ホクレンの「スポーツ応援米」を活用し、北海道スポーツ協会主催にて「きたえーるトップアスリートチャレンジ」が1月12日に札幌市にて開催されました。

ホクレンは同商品の売り上げ1kgにつき1円を同協会に寄付し、スポーツ振興に役立てており、同イベントでは小学1～4年を対象とし、北海道日本ハムファイターズのスペシャルアドバイザー・田中賢介さんらトップアスリートを招いて、様々なスポーツ体験にチャレンジしました。



JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。



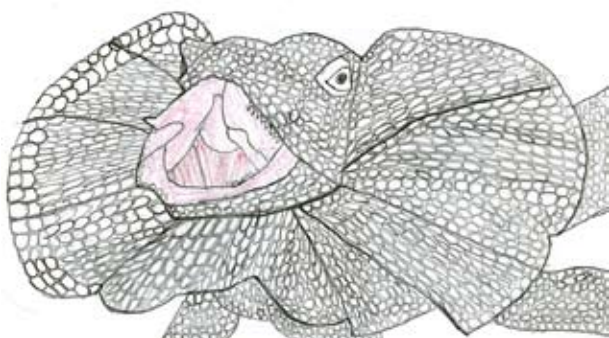
J Aグループ北海道の連合会・中央会の活動内容をご紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。



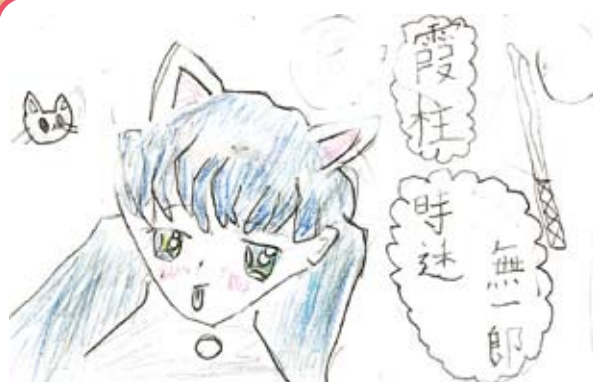


みんなの広場

コミュニケーション



エリマキトカゲ (ペンネーム/爬虫類博士)



コロナウイルスがはやっているの、家からは出ていないけど、手あらい、うがいはいっかりやりたいです。
(ペンネーム/あん子)



(ペンネーム/レナ)

久しぶりの大雪まいりましたね。
早くあったかくなって、コロナもなくなって、ふつうの生活がもどってくるのいいですね。
(ペンネーム/まめっち)

今年は入ってから色々な事がありました。
今はコロナウイルスで大変ですネ。もう私も1年5ヵ月後には年金をもらう年になり、結婚して3月20日は40年、長かったようで短かったようで、あとの人生、仕事も少しがんばり色々な所に遊びに行きたいですネ。がんばりまーす。

(ペンネーム/モンチッチ)

厳しい寒さはやわらぎましたが、まだまだ雪は降るようですね。春はまだ遠いのかな？

春は早く来てほしいし、コロナは早くおさまってほしいと願っています。

(ペンネーム/コンサ大好き親父)

早くコロナウイルスがおわってほしいです。
大好きな映画を見に行けないし、コンサートもいけないのがさみしいです。
早くあたたかなれ～小さなおねがい。あまり地球よあばれないでほしいですね。
(ペンネーム/ニャン子大好き)

3月3日は、おひな祭りでしたね。娘達はもう家には居ませんので、お祝いもしなくなりました。あっ!! 私「女」なのでお祝いしよーっと!! (笑)
(ペンネーム/春うらら)

早くコロナが終息して

日常に戻ってほしいですね

(ペンネーム/雪だるま)

記事・写真・イラストなど

大募集!!

身近で起きた出来事やベストショット写真、JAに対するご意見・ご要望など、読者の皆様からのご応募お待ちしております。

別紙の応募用紙に氏名・住所・電話番号を記入して、JA釧路太田事務所・Aコープおおた店・ホクレン太田・尾幌スタンド・酪農支援センターにある応募箱に投函してください。



(ペンネーム／ふじやん)



はやくおともだちとあそびたいよー。

(ペンネーム／キウイ)



キンキンに冷えてやがるっ…！

(ペンネーム／ふじやん)



(ペンネーム／ここちゃん)

編集後記

先月は大雪や大雨による洪水で大変でしたね。さらにテレビでコロナウイルスについて連日報道され、毎日怯えて生活しております…。臨時休校により給食で使われている牛乳の消費が落ち込んでいるようです。消費拡大の為、当農協では来客された方に牛乳を積極的にお配りしたり、職員も日々牛乳消費に努めています。牛乳消費の活動は広がっており、「牛乳消費」と検索をすればたくさんレシピが出てきます。今ネットで話題なのが平安時代の貴族のおやつ『蘇』です。牛乳をひたすら煮詰めて水分をとばすとできるかたまりで、至ってシンプルなものです。実際に「あつけし極みるく65」を使って作ってみました。

極みるく300mlとフライパンと木べらを用意し、弱火でフライパンに牛乳がこびりつかないようにずっとかき混ぜ続けます。25分後、牛乳にとろみがついてきて、さらに弱火でかき混ぜるとかたまりになってきます。ラップにまとめて冷蔵庫で冷やして、切り分けて『蘇』の完成です。

貴族の食べ物というだけあり、やたらと時間と手間がかかりましたが、味の方は…。皆さんもお試してください！

また、蘇にはちみつ^{そみつ}をかけると『蘇蜜』と呼ばれるおやつだそうです。古代の栄養食としてはバッチリですね。ロマンを感じるひとときでした。

残った牛乳はチョコみるく餅にしたり、シリアルにかけて頂きました。

編集担当／Y.T





第12回 理事会報告

令和2年2月20日(木)



報告事項

1. 無通告監事監査の結果について
2. 組合員の加入及び脱退について
加入 正組合員 1名
脱退 正組合員 1名
3. 新・農業人フェア(東京会場)の結果について

議決事項

1. 各種貸付金の貸付承認について
農業資金 4件
2. 理事に対する貸付金の貸付承認について
農業資金 2件
3. 出資口数の減少について
4. 令和2年 営農計画再協議の承認について

5. 令和2年 特定組合員の分担について
6. 令和2年度内部監査実施計画の策定について
7. 令和元年度経営定期点検実施結果の報告及び令和2年度経営定期点検実施計画の策定について
8. 令和元年度 決算見込及び事業分量配当支払基準の設定について
9. 固定資産の売却について
10. 令和2年度 事業計画大綱について
11. 購買業務規程の一部改正について
12. 資産の償却・引当基準の一部改正について
13. コンプライアンス・マニュアルの一部改正について
14. 職員の決算手当の支給について

JAくしおおち

4月
令和2年

行事予定

1 (水)	決算監事監査 Aコープ特売日	14 (火)	地区別懇談会予定 (午前: 若松)
2 (木)	一般市場	15 (水)	Aコープ特売日
3 (金)	第1回 臨時理事会 臨時離農セール	16 (木)	一般市場
8 (水)	Aコープ特売日	20 (月)	第2回理事会
9 (木)	役員報酬審議会予定 一般市場	21 (火)	Aコープ大売出し
10 (金)	乳牛市場	22 (水)	Aコープ大売出し (牛肉販売あり)
13 (月)	地区別懇談会予定 (午前: 太田、午後: 尾幌)	23 (木)	一般市場
		27 (月)	育成市場
		29 (水)	昭和の日